

# 町にかかわる不祥事について

## — ご報告とおわび —

町民のみなさん。  
町の仕事に関わって、まことに残念な事態が発生してしまいました。みなさんにたいへんなご心配、ご不安をおかけし、町の信頼を傷つける痛恨極まりないことであり、心から、深く、幾重にも伏しておわび申し上げます。

一連の事態はまだ捜査中であり、町として十分に把握できていない面もありますが、現時点（十一月二十六日）で私たちが知り得る範囲のことをここに報告し、ご理解を賜りたいと存じます。

現時点で私たちが確認できているのは、昨年七月二十三日に行われた町総合福祉センターの建築工事発注にあたって、

指名を受けた六業者の間で談合が行われ、その容疑で受注した建築会社の経営者が逮捕された。同じ容疑で、入札に加わったほかの五業者も取り調べを受けている。

これに関連し、越前谷長利助役（当時）がセンター本体工事の入札予定価格にかかわる情報を業者に漏らした容疑を受け、逮捕された。

以上の事実です。  
町営住宅の建築工事にあたっても同様の行為があったとの容疑を

受け、工事関係者の取り調べが行われています。これに関連し、町の職員が同じように価格を漏らしていたのではないかとこの容疑で、調べを受けています。以降のことは、次回の広報でお知らせすることになるでしょう。

「承知のように、福祉センターは旧秋田菅林病院を譲り受け、改築のうえ「特養よねしろ」とともに、高齢者福祉のもう一つの拠点としてこの春オープンした施設です。みなさんからの公募によって「ふっちゃん」と愛称をつけていただき、梅内から温泉を引いて、高齢者のデイサービスや生活の場、また、だれでもいつでも立ち寄ることができる施設として喜ばれ、ちょうど半年が経過したところでした。

新たな施設を建築しようという場合、私たちはいくつかの目的をもって臨みます。

第一はなんといっても、その建物が本来持つべき機能が十分に発揮されることです。時間をかけて検討を行い、ねらいが十分に発揮されるように努めます。

二ツ井町が「木材の町」であることは将来にわたって大変重要なことですが、建築にあたってはそ

のことも十分留意し、努力をすることとしています。

そして、その仕事をだれにやってもらうか。これもまた、きわめて大事なことです。

町が頼む仕事は、町の人たちにやってもらおう。それが、私たちの基本的な考えです。とりわけこしはらくは不景気が長引き、町内の事業者の方々が苦しんでいます。事業の不振は町の経済全体に響き、雇用にも影響します。

町の事業を通じて少しでもその状態を改善したい。その願いから、町営住宅などは国・県にお願いして計画を練り上げ、早期実施に努めました。とくに建築は関連する業種の幅が広く、景気刺激効果が大きいといわれています。町としてできることに最大限の努力をするのは、当然のことだと思います。

町の建築業の方々は総じて規模です。町の工事に参加することによって力をつけ、地元企業として伸びていく。ぜひそうあってほしいと願い、期待しながら進めてきました。発注に偏りがなく、一定の資格・要件を満たす人には門戸を開き、できるだけ多くの人に受注機会が行き渡るようにする。そのことにも努力を払ってまいりました。

この考えは建築に限らず、ほかの工事や物品購入などを含めて町としての基本的な原則であり、執行サイドのみで決めたものではなく、議会の意向も拝聴しながら町議会の総意として進めてきました。

このたびの事件は、そのような期待と信頼を裏切る、まことに残念な、痛恨のできごとでした。事態に応じた厳しさをもって対処しなければならぬと存じ、越前谷助役は解職（十一月二十四日）、逮捕された工務店は一年、談合に加わったとされる五業者は六カ月の町工事指名停止処分としました（十一月十四日）。

同時に、大事なことは再び不祥の事態が発生しない仕組みを作ることだと考え、庁内に「建設工事入札および契約事務改革検討委員会」を設け（十一月十五日）、検討を始めました。

予定価格を事前に公表するようにはしてどうか。発注行為を専門の第三者にゆだね、その裁量でコストダウンと談合防止を図る建設管理システム（CM方式）は導入できないか。

いくつかの論点をあげながら、細かい点も含めて制度改革のあり方を検討し、可能なものから順次早期に実施していく考えです。

断腸の思い。  
泣いて馬鹿を斬る。

厳しい決断を迫られる局面で使われる古くからの常套句の意味を、私は初めて身をもって感じました。町の活性化、みなさんの参加と協力を得てのまちづくり、課題が山積する町の振興対策。町政のいかなる仕事も、みなさんの信頼がなければ成り立ちません。と同時に、それにこたえる私たち行政の姿勢と努力がなければ成り立たないこともいつまでもありません。お互いの信頼こそ、何にもまさる町づくりの原点であり、原動力である。私はそう考えてこれまでの町政に携わってきました。

そのために、とくにも配慮しなければならぬのは、町の仕事を請け負う方々との関係です。ある時には協力を願い、ある時には画然と一線を引く。現実問題としてそれはなかなか難しいことですが、私たちは自らにそのことを堅く言い聞かせ、職員にも呼びかけて実行してきました。

だれもが心に傷を負いました。しかし、立ち止まっているわけにはいきません。

目の前にある重く厳しい問題の対応に全力を傾注しつつ、私たちは町政課題の解決に向かって前進して参ります。

みなさんから多くの励ましと叱声をいただいています。それは私たちにとって大きな勇気となりました。

どうか、引き続き厳しい視線で見守っていただくとともに、ときに温容に接していただければ、と念じています。

以上、この時点での状況をご報告しました。この広報をみなさんが手にするころ、おそらくはさらに捜査が進み、全容がみえていることと思います。次回の広報において、詳しくご報告するつもりです。

重ねておわびを申し上げ、ご報告と致します。ありがとうございました。